

南魚沼版 CCRC 構想

～多世代が輝くプラチナタウンの実現に向けて～

2015 年 11 月 新潟県南魚沼市

目 次

1. はじめに.....	1
(1) 南魚沼市におけるこれまでの CCRC の検討経緯.....	1
(2) 本基本構想の位置づけ	3
2. 南魚沼版 CCRC 推進の背景に係る認識	4
(1) 南魚沼市の地理的な特徴.....	4
(2) 南魚沼市の人口動向	4
(3) 南魚沼版 CCRC に関する地域資源	5
3. 南魚沼版 CCRC の意義と基本的な機能	7
(1) 南魚沼版 CCRC に取り組む意義	7
(2) CCRC に求められる基本的な機能	9
4. 南魚沼版 CCRC のすがた	10
(1) 南魚沼版 CCRC のコンセプト	10
(2) 南魚沼版 CCRC のタイプ	10
(3) 想定する場所と規模.....	10
(4) 南魚沼版 CCRC が持つべき機能	11
(5) 南魚沼版 CCRC を実現するための事業スキーム.....	12
(6) 南魚沼版 CCRC の事業領域と実現に向けた取組の方向性.....	13
5. 推進体制	16

1. はじめに

(1)南魚沼市におけるこれまでの CCRC の検討経緯

平成 26 年 7 月に株式会社三菱総合研究所と一般社団法人日米不動産協力機構が「サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策研究会¹」を共同で設置した。

南魚沼市は、平成 26 年 8 月より新潟県の産業創造担当者や上記研究会の主要メンバーである三菱総合研究所主席研究員との意見交換を通じ、新産業と新たな雇用の創出につながる CCRC を南魚沼で進める構想に着目し検討を開始した。

平成 26 年 9 月に南魚沼市議会において市長が「南魚沼市版プラチナタウン」構想に取組むことを正式に表明した。

平成 26 年 10 月には南魚沼市が産官学の関係者による勉強会を立ち上げ、平成 27 年度 3 月までに 3 回の勉強会と地方創生セミナーを開催してきた。

その後、平成 27 年 7 月に産学官の連携した組織として「南魚沼版 CCRC 推進協議会」を設立し、3 回の会議開催を通じて「南魚沼版 CCRC」の具体的事業推進についての議論をし、「南魚沼版 CCRC 構想」を取りまとめるに至った。

なお、国においては平成 26 年 12 月の総合戦略²において、「日本版 CCRC」を初めて位置づけ、平成 27 年 2 月に「日本版 CCRC 構想有識者会議」（以下「有識者会議」）を設置した。有識者会議においては、国の検討に先立って進めてきた「南魚沼版 CCRC」が国内における CCRC の先進事例のひとつとして紹介され、平成 27 年 8 月には南魚沼市長が有識者会議において「南魚沼版 CCRC」の取組みについて報告をしている。



¹ 株式会社三菱総合研究所と一般社団法人日米不動産協力機構が「健康・高齢者・省エネに対応した持続可能な地域づくり」の具体化の検討及び推進・支援のための政策提言と、国民的運動『動かそう、みんなで、日本版 CCRC』の促進を行うことを目的に設置。平成 27 年 1 月には、政策提言「日本版 CCRC：サステナブル・プラチナ・コミュニティの政策提言」をとりまとめ

² 平成 2014 年 12 月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

表 1-1 南魚沼版 CCRC 推進協議会の開催経緯

時期	南魚沼版 CCRC 構想に係る取組	関連動向
平成 24 年		プラチナ社会研究会「CCRC ビジネス分科会」を設置
平成 26 年 7 月 10 日		「サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策研究会」を設置
平成 26 年 8 月	南魚沼市、新潟県、三菱総合研究所による意見交換	
平成 26 年 9 月	南魚沼市長「南魚沼市版プラチナタウン」構想に取組むことを正式に表明	
平成 26 年 10 月 27 日	第 1 回勉強会 会場 南魚沼市役所	
平成 26 年 12 月 24 日	第 2 回勉強会（ワークショップ） 会場 魚沼の里「みんなの社員食堂」	
平成 26 年 12 月 27 日		「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（12 月 27 日閣議決定）において「日本版 CCRC の検討」を政策として位置づけ
平成 27 年 2 月 18 日	第 3 回勉強会 会場 ふれ愛支援センター	
平成 27 年 2 月 25 日		国が「日本版 CCRC 構想有識者会議」を設置
平成 27 年 3 月 7 日	地方創生セミナー 会場 南魚沼市立図書館	
平成 27 年 7 月 1 日	南魚沼版 CCRC 推進協議会 第 1 回会議 会場 南魚沼市役所大和庁舎	
平成 27 年 8 月 17 日	南魚沼版 CCRC 推進協議会 第 2 回会議 会場 南魚沼市役所大和庁舎	
平成 27 年 9 月 29 日	南魚沼版 CCRC 推進協議会 第 3 回会議 会場 南魚沼市役所大和庁舎	
平成 27 年 11 月 19 日		「南魚沼 CCRC ビジネス研究会」を設置し、プラチナ社会研究会内に分科会を開設
平成 27 年 11 月 20 日	南魚沼版 CCRC 推進協議会 第 4 回会議 会場 大和商工会	



(2)本基本構想の位置づけ

1)策定主体

南魚沼市

2)目標年

平成 31 年度

3)位置づけ

南魚沼版 CCRC 推進協議会における議論を経て、関係者間で共有してきた南魚沼版 CCRC の特徴、構想推進の意義、目指す事業領域・サービスプログラムを整理するとともに、今後の事業計画策定・推進上の課題や方向性を明らかにするもの

4)策定方法

南魚沼版 CCRC 推進協議会における協議を経て南魚沼市長が決定



2. 南魚沼版 CCRC 推進の背景に係る認識

(1) 南魚沼市の地理的な特徴

- ・ 東京から新幹線で約 1 時間半という立地
- ・ 四季の彩り豊かな自然と自然が育む食、衣
- ・ 自然が育む文化、交流



(2) 南魚沼市の人口動向

2015 年現在 5 万 9 千人の人口は、2060 年には約 3 万 7 千人と現在の約 6 割にまで減少すると予想されている³。

一方で高齢者の比率は今後も増加を続け、2060 年には 40%に達すると予想されており、地域・経済・福祉の様々な面で担い手不足が懸念される。

⇒ 地域づくりの担い手となるアクティブシニア層の移住を迎え入れ、移住者に活躍してもらえる環境づくりや、地域の活力向上に繋がる形での CCRC の導入が求められる。

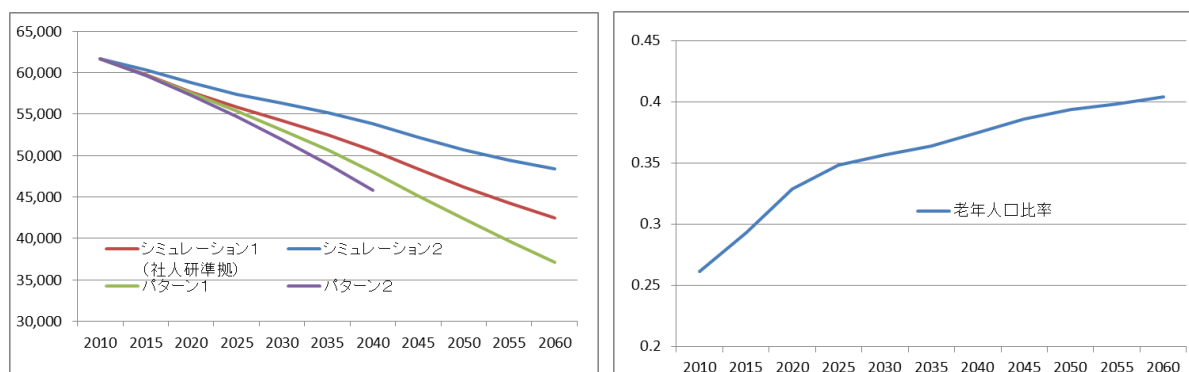


図 2-1 総人口の推計値(左)

図 2-2 老年人口比率(右)

出典) 地域経済分析システムをもとに三菱総合研究所作成

³ 国立社会保障・人口問題研究所の予測による。

(3)南魚沼版 CCRC に関する地域資源

南魚沼市には、CCRC と強い連携により様々なメリットが期待できる国際大学がある。国際大学は全ての授業が英語で学生の約 85%が外国人留学生という大学院大学であり、南魚沼市とはこれまでも留学生と地域との交流や ICLOVE（国際大学－南魚沼市地域産業支援プログラム）等により様々な取組を行ってきた。これまでの取組みを基盤とし、例えば海外勤務経験のあるシニアが CCRC に移住してくることで国際交流の取組みのさらなる展開が期待できる。

立地環境については、CCRC の候補地として有力な国際大学や、魚沼基幹病院、上越新幹線の浦佐駅、高速道路の大和スマート・インター・チェンジ等が半径 2km 圏内にあり、最も有力な移住者の市場である首都圏からの移住者を呼び込む際に有利な条件が揃っている。

さらに、これらの施設関係者や市内外の事業者、その他の関係者が南魚沼版 CCRC の推進に関して高い関心を持ち、勉強会等に参画するなど、CCRC 構想推進に向けた素地を有している。

（CCRC の場所提供、交流拠点）

- ・ 国際大学
- ・ 国際大学の学生（留学生含む）・OB・OG

（交流基盤）

- ・ 交通インフラ（高速道路：大和 SIC、新幹線：浦佐駅）
- ・ 観光資源

（生活支援機能・施設）

- ・ 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院
- ・ 北里大学保健衛生専門学院

（産業、事業者）

- ・ 八海醸造（株）ほか市内企業
- ・ セントラルスポーツ（株）ほか市外企業
- ・ 北越銀行（株）ほか市内外金融機関

（市内関係者）

- ・ 女子力観光プロモーションチーム
- ・ メディカルタウン研究委員会
- ・ 社会福祉法人
- ・ 議会、南魚沼市



(市外関係者)

- ・ 新潟県
- ・ (一社)健康ビジネス協議会
- ・ 報道関係者

(人的ネットワーク)

- ・ 既移住者や移住者ネットワーク
- ・ 移住促進のためのこれまでの取組みによる成果や知見の蓄積



3. 南魚沼版 CCRC の意義と基本的な機能

(1) 南魚沼版 CCRC に取り組む意義

平成 24 年の「プラチナ社会研究会 CCRC ビジネス分科会」や平成 26 年の 7 月に設置された「サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策研究会」における米国の CCRC 事例の紹介等を通じ、我が国においても徐々に CCRC の概念について認知されるようになってきた。

そして平成 26 年末に国の総合戦略に位置付けられた後、平成 27 年 2 月に国の有識者会議が設置された頃よりメディアに取り上げられる機会が増えてきたが、必ずしもその趣旨が正確に理解されているとは言い難く、一部には単なる高齢者の介護受け入れ施設であるかのように語られ、そうした誤解をされている一面もある。

しかし CCRC は単なる高齢者向け介護施設ではない。CCRC は現役を含むアクティブなシニアが元気なうちに移り住み、医療、介護予防、介護サービス提供体制が確保された中で安心して暮らし、地域のコミュニティと関わりながら生きがいを持って暮らし、地域における新たな産業の創造や雇用を創出するコミュニティである。言い換えれば南魚沼版 CCRC は、そこに移り住むシニアが要介護にならずに健康が維持されることで収益が向上する事業モデルであり、さらにそうして健康で生きがいをもって暮らすことにより様々なプラスの連鎖を生み出す新しいコミュニティのモデルなのである。

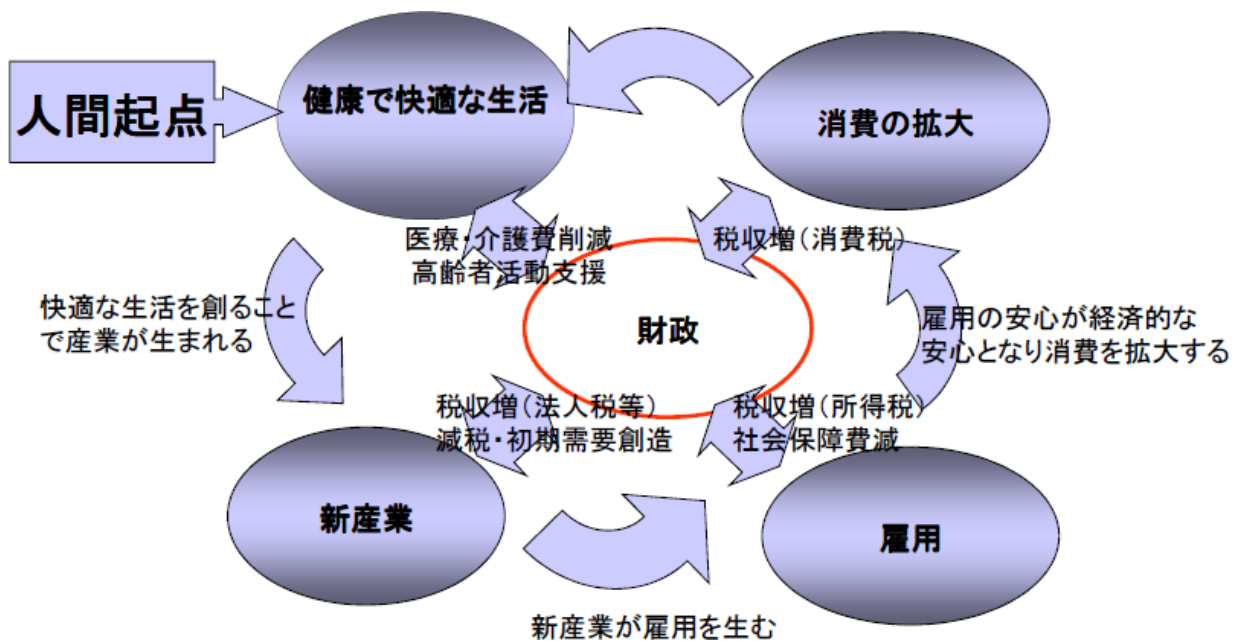


図 3-1 健康な生活がプラスの連鎖を生むコミュニティのモデル

南魚沼版 CCRC 構想を推進する最大の意義は、この“地域における新たな産業の創造と雇用の創出”である。

特に、南魚沼市には国際大学という比類のない地域資源があり、ここへ移住するアクティブなシニアと留学生との交流や、国際感覚を有する人材育成などのプログラムが展開されることで、国際交流の推進や南魚沼市へのグローバル企業誘致等、この地における国際ビジネス環境の創造に繋がる可能性が広がる。またこれまでのビジネス経験や人的ネットワークを有するシニアが南魚沼版 CCRC に移住してくることで、豊富な自然や食の資源を活用した 6 次産業や観光産業等の分野でのビジネス交流が展開される可能性がある。さらに健康の維持・管理に貢献する管理栄養士、保健師、看護師等を養成する北里大学保健衛生専門学院との連携により、移住者に対する食事・運動指導等、「健康寿命延伸」に係る事業の展開が可能になる。さらに、魚沼医療圏の各医療機関等との連携を拡大させることにより、この地域がこうした活動に携わるアクティブなシニアに関する健康ビッグデータの蓄積と解析を通じた研究・開発の拠点となる可能性も広がる。

こうして移住したシニアが生きがいをもって暮らし、魅力的なまちが形成されることで子供や孫、友人・知人と呼びたくなり、交流人口を増やすことにもつながる。さらに移住者シニアが冬季も活動できるように配慮された集合住宅型の CCRC とし一定のエリアに集住することで効率的なエネルギー利用が可能となる。

このように南魚沼版 CCRC 構想は単なる高齢者向け施設の整備ではなく、地域における多様な主体との交流を生み、新たな産業と雇用を生み出す”場の創造“や、交流人口の増大、エネルギーの効率的な利用等の多面的な効果を生み出すコミュニティの形成に向けた取組になる。こうした新たな産業と雇用の創出は、地域の若者の流出抑制や地域外からの移住・定住に繋がるため、今後の人口減少の抑制に向けた南魚沼市の地方創生の取組においてもきわめて重要な政策となる。



(2) CCRC に求められる基本的な機能

CCRC は従来の高齢者住宅とは全く異なる住まい・コミュニティである。居住者は基本的には健康な状態で入居し、健康を維持、増進するための様々な支援を受けることができるとともに、コミュニティの運営主体が提供する様々なプログラムへの参画や、自発的な活動により地域コミュニティともかかわり合い、生きがいを感じながら生活することができる。

シニアのより良い生活を実現するためには、従来の高齢者住宅が持っていた居住機能と健康・医療・介護機能に加え、コミュニティ機能、社会参加機能、多世代共創機能を有し、これらの機能が個々の居住者に適切に提供されるよう総合的な推進をする全体マネジメント機能を有することが求められる。

コミュニティ機能や、社会参加機能、多世代共創機能については、CCRC が立地する地域の資源と連携することで、地域毎に特色ある CCRC が実現する。こうした機能がシニアのよりよい生活のみならず、地域社会に様々なプラスの効果をもたらすような仕組みになり得るよう、多様な主体と連携し、地域づくりの一環として継続的に取り組むことが CCRC 推進の重要なポイントとなる。

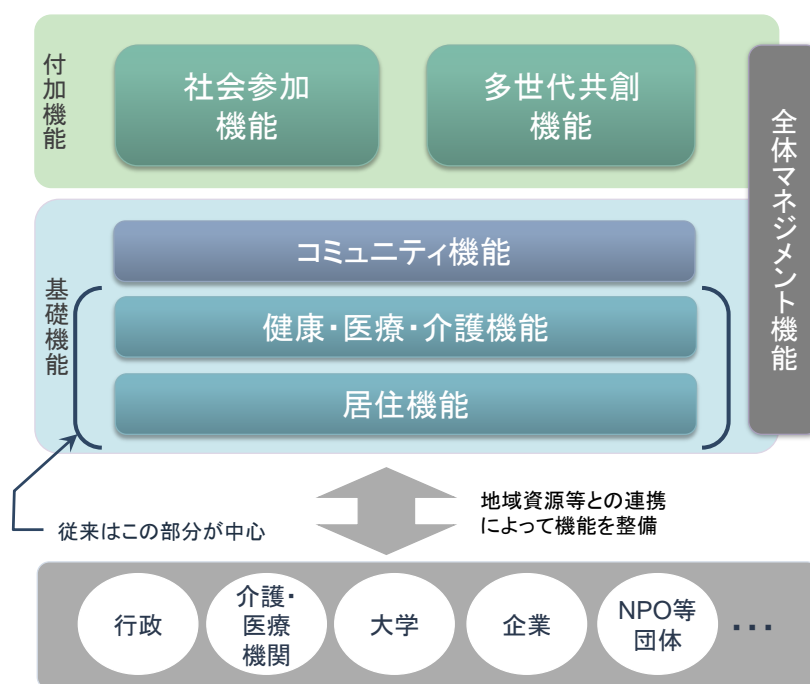


図 3-2 CCRC の基本的な機能構成

出典) サステナブル・プラチナ・コミュニティ(日本版 CCRC)政策提言
<http://www.mri.co.jp/news/press/teigen/017863.html>

4. 南魚沼版 CCRC のすがた

(1) 南魚沼版 CCRC のコンセプト

南魚沼版 CCRC は、第二の人生を大都市以外で選択しようとする東京圏等在住のシニアを対象に南魚沼の地理、気候、歴史、産業等の資源の活用や、国際大学との連携により、既存住民との共生による、地域にひらかれた「グローバル・コミュニティ」を形成し、南魚沼市が掲げる“プラチナタウン”の実現に資するものである。

南魚沼版 CCRC は将来的には、移住者と既存住民との共生によるコミュニティの活動と、健康、環境、農業、ICT 等の分野におけるリーダー企業との活動の連携により、地域において新たな産業を生みだし、若者の雇用と、既存市民や移住シニアの生きがいとが共存する、21 世紀の成熟した先進国における持続可能な小規模都市のモデルとなることを目指す。

(2) 南魚沼版 CCRC のタイプ

国際大学や北里大学保健衛生専門学院等の教育機関との連携、及び、新設の住宅整備を前提とした CCRC とする。また、冬季には積雪による移動制約の多い田園地域であることから居住施設には一定の生活サービス機能を持たせつつも、周辺の医療機関、交通施設、交流拠点等との連携によるエリア型の CCRC として構想する。さらに、新幹線駅、高速道路 I.C.との近接性を活かし、大都市からの移住者をシニア住宅の主たる入居者として想定する。

- ・ カレッジリンク型（移住者と学生との交流、混住等）・新設移住型の CCRC
- ・ 地域特性：田園地域型
- ・ 地域的広がり：エリア型
- ・ 住み替えパターン：大都市移住型

(3) 想定する場所と規模

対象とする場所は、上越新幹線浦佐駅、大和 SIC、国際大学、新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院、北里大学保健衛生専門学院、国際情報高校、大和中学校、浦佐小学校、浦佐温泉、越後ワイナリー、八色の森公園等を含むエリア一帯を想定する。

シニア住宅については、上記想定するエリアの中を建設予定地とし、当面は 400 人（200 戸分）のアクティブシニアの移住を目標規模とする。



図 4-1 南魚沼版 CCRC の想定エリア

(4)南魚沼版 CCRC が持つべき機能

南魚沼版 CCRC は、特徴ある多様な主体の参画と地域資源の活用により、同規模の他都市では成し得ない様々な特色のある取組が実現できる可能性を持っている。

国際大学との連携を前提とした世代間交流・国際交流の機能を有していることは南魚沼版 CCRC の大きな特徴である。さらにこれらの交流やビジネス交流を基盤とした産業・雇用創出機能も南魚沼版 CCRC の重要な機能である。

構想の推進に際しては、こうした南魚沼版 CCRC が持つべき特徴的な機能が最大限発揮されるよう事業を進めていくことが重要である。

【基礎機能】

1)シニアが住み続けられる住環境の提供

- ・ シニア向けの住宅整備（冬場も苦にならない質の高い住宅）
- ・ バリアフリー空間の整備（エリア内のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化）

2)シニアの健康維持・増進

- ・ 医療・介護予防・介護サービス
- ・ 地域の活力向上（アクティブシニアの活動）
- ・ 健康づくりに係る研究開発（健康に関するビッグデータの蓄積、学会発表を通じたノウハウ蓄積等）

【付加機能（社会参加・多世代共創）】

3)活動の場づくり

- ・ シニアの生きがい創出（知的好奇心を満たす場、自身のスキルを活かせる場の創出）
- ・ ボランティア活動等を通じた地域づくりへの貢献（新しい公共、地域の課題解決）

4)交流の促進

- ・ 国際大学の留学生との日常生活の中の交流
- ・ 国際大学の OB/OG や海外企業との交流
- ・ 世代間交流（シニアと若者世代との交流）
- ・ 地域内・地域間交流（移住者と住民との交流、首都圏等移住元地域との交流、CCRC に取組む他地域との交流）

【付加機能（産業創出・産業人材育成）】

5)人材育成

- ・ 国際感覚を有する人材（シニアから子供まで）
- ・ ビジネス人材（ビジネス感覚を持ち、コミュニケーション能力の高い若者 等）

6)新産業創出・雇用の創造

- ・ 既存産業の振興（医療、介護、建設、生活サービス、農業、林業）
- ・ 新たな産業の創出（SB/ CB、観光、6次産業、商業、飲食、教育サービス、）
- ・ 外資系企業誘致

(5)南魚沼版 CCRC を実現するための事業スキーム

CCRC 運営事業は、シニア向けの住宅の管理、シニアの健康を守る医療・介護サービスの運営を行うとともに、CCRC 特有の交流の場づくりや社会参加のための仕掛けを継続的に企画・運営する事業である。

このような CCRC 運営事業のスキームは、日本においてはまだ確立されていない。このため、南魚沼版 CCRC が持つべき機能を満たす事業領域を明確化し、それぞれの事業運営に必要な要件を定義したうえで、コアとなる CCRC 運営事業者や、運営協力者を含めた全体の事業スキームを慎重に組み立てていくことが重要である。

以下に、事業スキームの一例についてその考え方と概略を示す。この例では、CCRC 運営事業者とシニア住宅の土地・建物の所有者としての資産保有会社を分けたスキームとしている。資産保有会社は土地を確保しシニア向け住宅を建設、これを保有し、CCRC 事業者は建物を貸し付ける。CCRC 運営事業者は入居するシニアからの入居費用や多様な協力者との協働により提供するシニア向けのサービスの対価を得て事業を運営する（下図）。

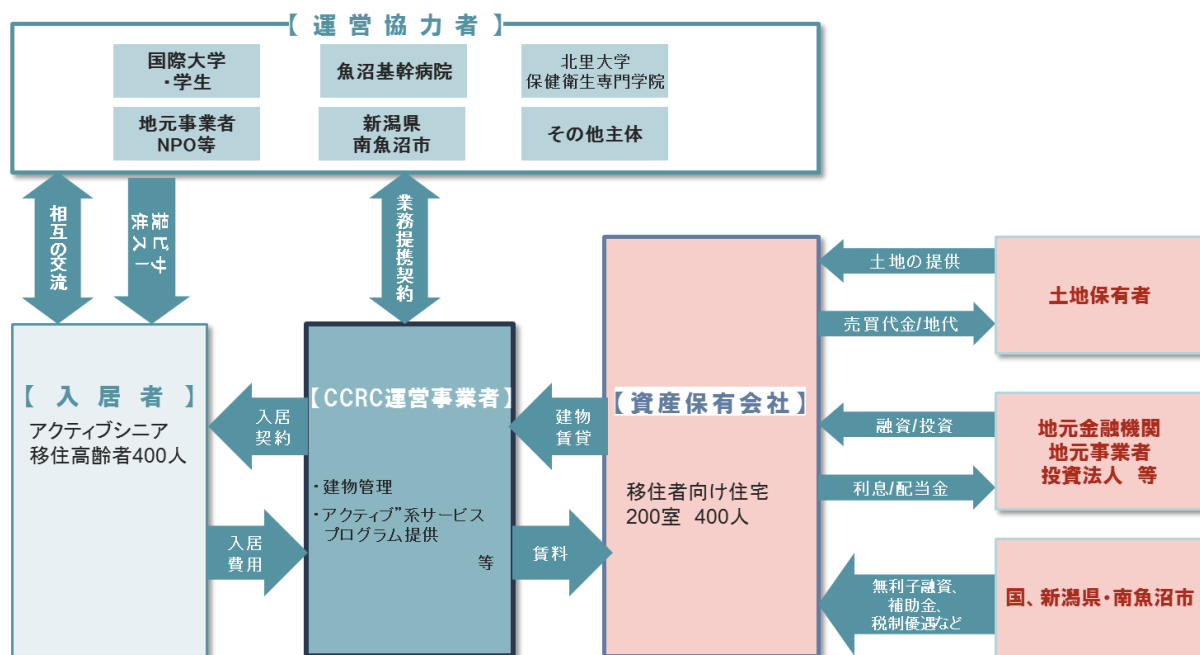


図 4-2 南魚沼版 CCRC の基本的な事業の枠組みの一例

出典)三菱総合研究所作成

以上のスキームの他に、運営事業者と資産保有が一体となるケースや、土地保有者が建物も保有するケース等、様々なバリエーションがあり得る。

いずれにしても、事業スキーム検討に際しては、南魚沼版 CCRC 運営事業の要件定義、これを実現するための協力主体との連携内容の検討、それを踏まえた CCRC 運営事業者の選定等を含めて、全体最適、かつ、中長期的な視点を持ちつつ詰めていく必要がある。

(6)南魚沼版 CCRC の事業領域と実現に向けた取組の方向性

南魚沼版 CCRC 構想の推進に際して展開する事業領域を以下に記す。

なお、ここでいう“事業”は、狭い意味での収益事業のみならず、行政の施策の実施単位としての事業も含めた概念として用いている。南魚沼版 CCRC は、これまで民間事業として各地で展開されている国内の先進事例と言われる施設とは異なり、行政主導で立ち上げた構想であり、様々な政策分野に跨る総合施策として関連部局が連携して推進しつつ、民間事業との適切な役割分担により継続していくことが望ましい。

※以下、(カッコ内) は想定される事業主体

1)構想推進事業(市)

本構想に沿い、短期的な移住者増加のみならず、中長期的な産業・雇用創出にどのように繋げていくかという視点を継続的に持ち、CCRC 構想全体を適切に方向づけていく。

- ・推進会議運営
- ・事業スキームの具体化検討
- ・情報提供ツール・コンテンツ整備 (事業者向け)

【取組の方向性、検討課題】

- ・CCRC 運営事業の要件検討
- ・事業領域ごとの取組概要と担当主体の検討
- ・F/S (フィージビリティスタディ) 実施
- ・建設費の調達方法 (国・県の交付金・補助金を活用した事業実施)
- ・移住者向け住宅の建設場所の検討、事業スキーム検討
- ・推進体制の詳細検討 (司令塔機能の置き方)
- ・CCRC 導入による経済効果の検討
- ・CCRC の産業ビジョンの検討 (健康ビッグデータ、IT と農業、AI・ロボット等)
- ・今後の南魚沼市の関与のあり方 (資産保有会社や CCRC 運営事業者との関係)

2)移住促進事業(市+各種協力主体)

これまでの南魚沼市の移住促進施策とも関連付け、移住者の送り手側の地域となる首都圏の自治体等とのコネクション形成を図り、南魚沼版 CCRC に相応しい移住者の発掘を継続的に実施可能な仕組みづくりを行う。

- ・お試し移住の実施
- ・情報提供ツール・コンテンツ整備 (移住者向け)
- ・送り手地域における情報発信・交流拠点確保
- ・移住者の募集

【取組の方向性、検討課題】

- ・マーケティング (ニーズ把握)
- ・送り出し側自治体とのパイプ作り

- ・移住促進の継続実施のための体制強化
- ・移住予備軍の囲い込み（例：東京圏での地域課題解決 WS 開催等）

3)国際大学を核とした各種交流事業(CCRC 運営事業者+国際大学)

国際大学の留学生やその家族との交流等、南魚沼版 CCRC を特徴づける、アクティブなシニアにとって魅力があり、また留学生や大学にもメリットのあるプログラムの開発を継続的に行う。CCRC 運営事業者は大学と適切に連携しながら、シニアにとって魅力ある活動の場づくりを行う。

- ・留学生と移住者・住民等との交流プログラム開発
- ・国際理解教育・ホームステイ実施
- ・教育旅行の受入
- ・地元住民向けの教育サービス（英語塾、経営塾等）

【取組の方向性、検討課題】

- ・国際大学との連携による検討体制構築
- ・ICLOVE（国際大学－南魚沼地域産業支援プログラム）の展開

4)産業・ビジネス交流事業(CCRC 運営事業者+各種協力主体)

南魚沼版 CCRC を、ビジネスに対してアクティブなシニアのスキルやノウハウを活かせる場として、またアクティブなシニアに対する新商品や新サービスのマーケティングを実践できる場として捉え、地域における新産業・雇用の創造につなげていく。交流の場づくり自体は民間事業者主体で進められていくが、CCRC 運営事業者はそうした“周辺事業”と適切に連携し、移住するシニアから見て魅力的な活動の場づくりを行う。

- ・シニアの就業支援
- ・シニアのスキルを活かした若者によるビジネス創出の場づくり
- ・医療機関との連携による高齢社会研究の推進
- ・協力企業との連携強化（ビジネス研究会等）
- ・観光振興（体験交流型観光、プロモーション、医療ツーリズム）

【取組の方向性、検討課題】

- ・平成 28 年度うおぬま会議企画・運営（米国 CCRC 関係者の講演、CCRC 取組地域との交流 他）

5)地域包括ケア事業(市+医療機関+介護施設+北里大学)

CCRC に入居する高齢者への医療・介護サービスを確保しつつ、既存の地域住民向けの医療・介護サービスのさらなる充実も図られるよう、地域包括ケアシステムの構築を進める。

- ・CCRC 入居者を対象とした医療・介護予防・介護サービス（施設内外の診療所・介護施設）
- ・周辺地域住民を対象とした医療・介護予防・介護サービス（施設内外の診療所・介護施設）

【取組の方向性、検討課題】

- ・ 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院との連携体制構築
- ・ 北里大学保健衛生専門学院との連携体制構築（シニアの健康管理のための体制構築）

6)住宅整備事業(資産保有会社、CCRC 運営事業者等)

南魚沼版 CCRC に相応しい品質を持つシニア住宅の整備事業を進める。

- ・ 200 戸 400 人の移住者向け住宅の建設

【取組の方向性、検討課題】

- ・ 雪の活用等再生可能エネルギー導入等により、エネルギーの域内自給を目指す
- ・ 雪国に適した快適な住環境
- ・ 地元産木材の活用

7)施設管理事業(CCRC 運営事業者等)

シニア向け住宅を適切に管理する。CCRC 運営事業者が担う多様な事業のうち、最も基本的な居住施設の管理に係る事業に相当する。

- ・ 移住者住宅の維持・管理
- ・ 移住者向け、住民向け各種サービスの運営（飲食店、物販等のテナント管理）
- ・ 住民・来訪者向けサービスの提供（学童クラブ、保育サービス、宿泊施設）
- ・ 他地域からの視察の受入

【取組の方向性、検討課題】

- ・ CCRC 運営事業者の募集要項の作成、選定方法の決定
- ・ CCRC 運営事業者の募集、決定

5. 推進体制

南魚沼版 CCRC 推進協議会（以下、「推進協議会」）を中心に南魚沼版 CCRC 構想の事業推進を図る。

推進協議会は、CCRC の運営事業者や連携事業者とは独立した第三者機関として、本構想に示した南魚沼版 CCRC 構想の事業計画を作成・推進（PDCA）を担う。

また、南魚沼 CCRC 推進の意義やコンセプトに照らし、地域づくりの一環としての適切な事業推進の観点から事業推進上の課題を抽出、必要に応じて対応について検討、南魚沼市長への意見具申、各方面との調整を行う。

当面の取組課題への対応のため、推進協議会に専門部会を設け、事業化に向けた具体的な検討を行う。

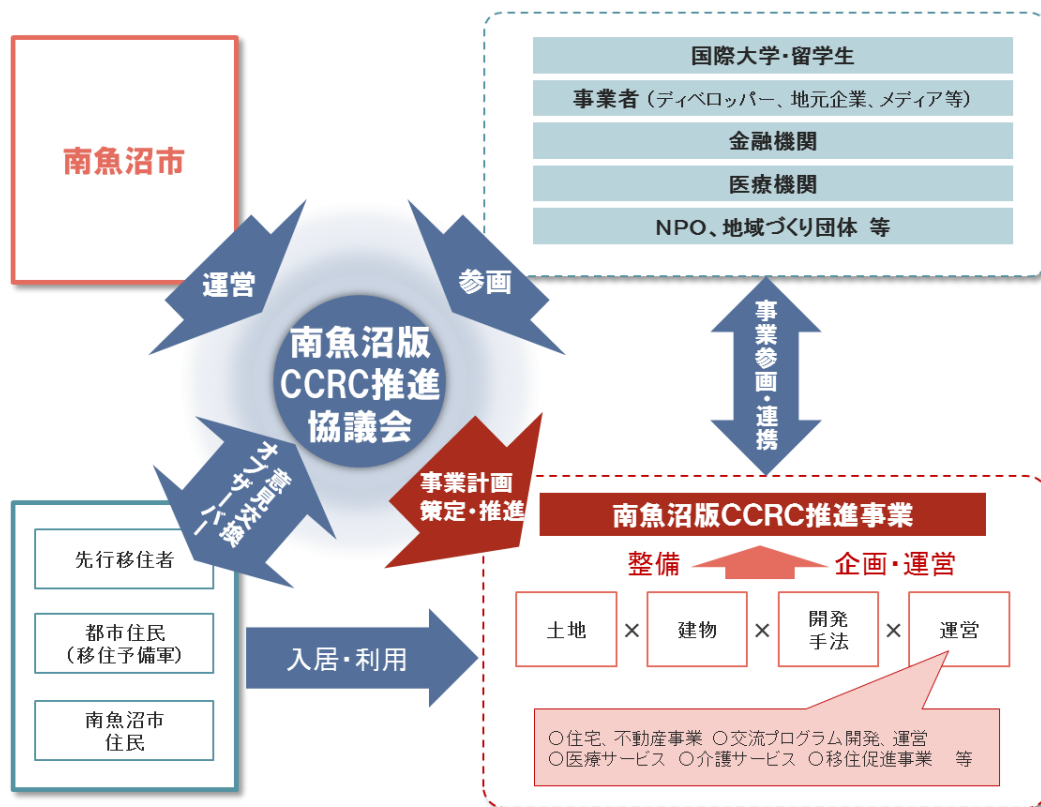


図 5-1 南魚沼版 CCRC 構想の推進体制

資料)三菱総合研究所作成

以上